

A 2020年東京オリンピック・パラリンピックとの関わり方と国民の期待

笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所

研究員

山田 大輔

はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下：東京オリンピック・パラリンピック）の開催が決定し、わが国では組織委員会の設置にはじまり、関連する各団体・組織における大会準備が進んでいる。

招致委員会が国際オリンピック委員会（IOC）に提出した立候補ファイル¹⁾によると、2012年10月時点で国民の64%（東京都民65%）が開催に賛意を示していたが、実際に東京での開催が決定した今、国民は東京オリッ

ク・パラリンピックとの関わり方をどのように捉えているのであろうか。

本稿では、国民の東京オリンピック・パラリンピックとの直接的な関わり方として、スポーツを「みる」「ささえる」の2つの視点から現在の状況を示した。また、大会全体を通じて、国民はどのような社会の変化を期待しているのかを検討し、今後のスポーツ施策を考える基礎資料とすることとした。

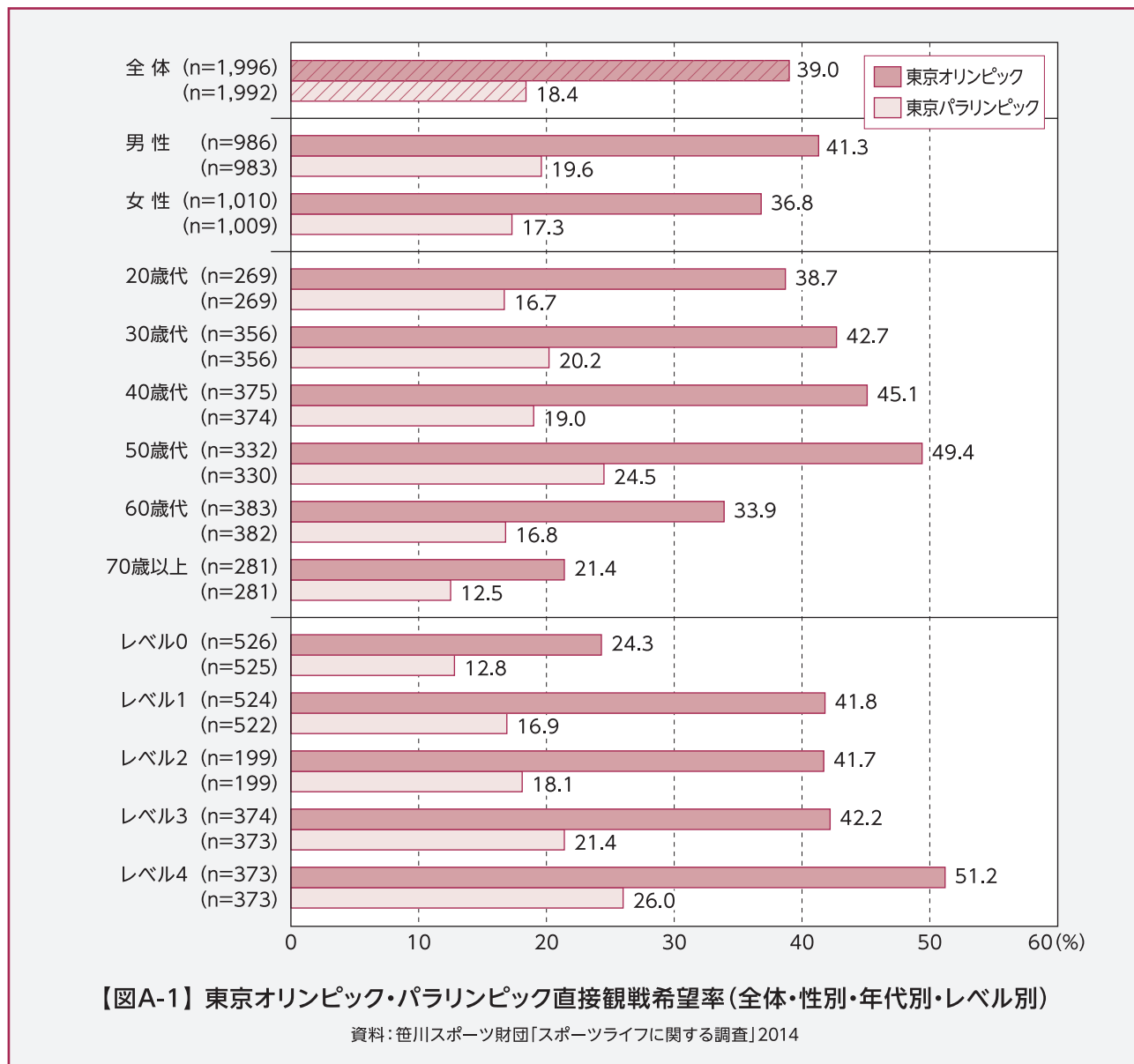
A-1 東京オリンピック・パラリンピックの直接観戦希望状況

本調査では、東京オリンピック・パラリンピックについて、チケットを購入し、競技会場で直接観戦したいかどうかをたずねた。

東京オリンピックを直接観戦したいと回答した者は全体で39.0%であった（図A-1）。性別にみると男性は41.3%、女性は36.8%となっている。年代別では、50歳代が49.4%と最も高く、次いで40歳代45.1%、30歳代42.7%と続く。運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」が51.2%と最も高く、次いで「レベル1」「レベル2」「レベル3」が40%台前半を示している。一方、過去1年間にまったく

運動を実施していない「レベル0」は24.3%であり、「レベル1」以上と比較して低い値であった。

東京パラリンピックを直接観戦したいと回答した者は全体で18.4%であった。性別にみると男性19.6%、女性17.3%となっている。年代別では、50歳代が最も高く24.5%であり、続いて30歳代が20.2%、40歳代が19.0%となっている。レベル別にみると、「レベル4」26.0%、「レベル3」21.4%、「レベル2」18.1%、「レベル1」16.9%、「レベル0」12.8%となり、レベルが高いほど直接観戦希望率も高い。



A-2 東京オリンピック・パラリンピックにおける種目別の直接観戦希望率

直接観戦したいと回答した者について、種目別（開会式・閉会式を含む）の直接観戦希望率を算出した。全体をみると、東京オリンピックでは「サッカー」が47.8%と最も高く、次いで「開会式」47.0%、「体操」41.1%、「陸上競技」36.9%、「水泳」32.5%となった（表A-1）。性別にみると、男性では、1位「サッカー」54.7%、2位「陸上競技」43.3%、3位「開会式」38.2%となり、女性では、1位「開会式」56.7%、2位「体操」45.7%、3位「バレーボール」40.6%となっている。また、東京パラリンピックでは、全体で「車椅子バスケットボール」が42.3%と最も高い値を示し、続いて「車いすテニス」40.7%、「陸上競

技」37.0%、「開会式」35.9%、「水泳」27.3%となっている（表A-2）。性別にみると、男性は、1位「車椅子バスケットボール」45.5%、2位「車いすテニス」40.1%、同率で「陸上競技」であり、女性は1位「車いすテニス」41.3%、2位「車椅子バスケットボール」39.0%、3位「開会式」37.2%となっている。

東京オリンピック・パラリンピックの全競技会場を観客で満員とするためには、今後5年間での大会機運の盛り上げと併せて、チケットの販売方法や価格設定などに関する的確なマーケティングが必要となる。

【表A-1】東京オリンピックにおける種目別の直接観戦希望率(全体・性別:複数回答)(上位10種目)

全 体 (n=778)			男 性 (n=406)			女 性 (n=372)		
順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)
1	サッカー	47.8	1	サッカー	54.7	1	開会式	56.7
2	開会式	47.0	2	陸上競技	43.3	2	体操	45.7
3	体操	41.1	3	開会式	38.2	3	バレーボール	40.6
4	陸上競技	36.9	4	体操	36.9	4	サッカー	40.3
5	水泳	32.5	5	水泳	28.8	5	水泳	36.6
6	バレーボール	30.1	6	柔道	23.2	6	陸上競技	29.8
7	閉会式	20.8	7	バレーボール	20.4	7	閉会式	24.5
8	柔道	19.3	8	閉会式	17.5	8	テニス	18.3
9	テニス	16.3	9	ゴルフ	15.3	9	柔道	15.1
10	バスケットボール	11.6	10	テニス	14.5	10	卓球	11.6

注) 開会式・閉会式を含む

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表A-2】東京パラリンピックにおける種目別の直接観戦希望率(全体・性別:複数回答)(上位10種目)

全 体 (n=359)			男 性 (n=187)			女 性 (n=172)		
順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)	順位	種 目	希望率(%)
1	車いすバスケットボール*1	42.3	1	車いすバスケットボール*1	45.5	1	車いすテニス	41.3
2	車いすテニス	40.7	2	車いすテニス	40.1	2	車いすバスケットボール*1	39.0
3	陸上競技	37.0		陸上競技	40.1	3	開会式	37.2
4	開会式	35.9	4	開会式	34.8	4	陸上競技	33.7
5	水泳	27.3	5	水泳	24.1	5	水泳	30.8
6	閉会式	18.4	6	閉会式	17.1	6	閉会式	19.8
7	視覚障害者5人制サッカー	13.1	7	柔道	16.6	7	視覚障害者5人制サッカー	11.6
8	自転車競技	12.0	8	視覚障害者5人制サッカー	14.4	8	卓球	11.0
	柔道	12.0	9	自転車競技	14.4	9	自転車競技	9.3
10	卓球	10.0	10	アーチェリー	10.2	10	柔道	7.0

注) 開会式・閉会式を含む

*1 正式表記は「車椅子バスケットボール」(本文中では正式表記を用いた)

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

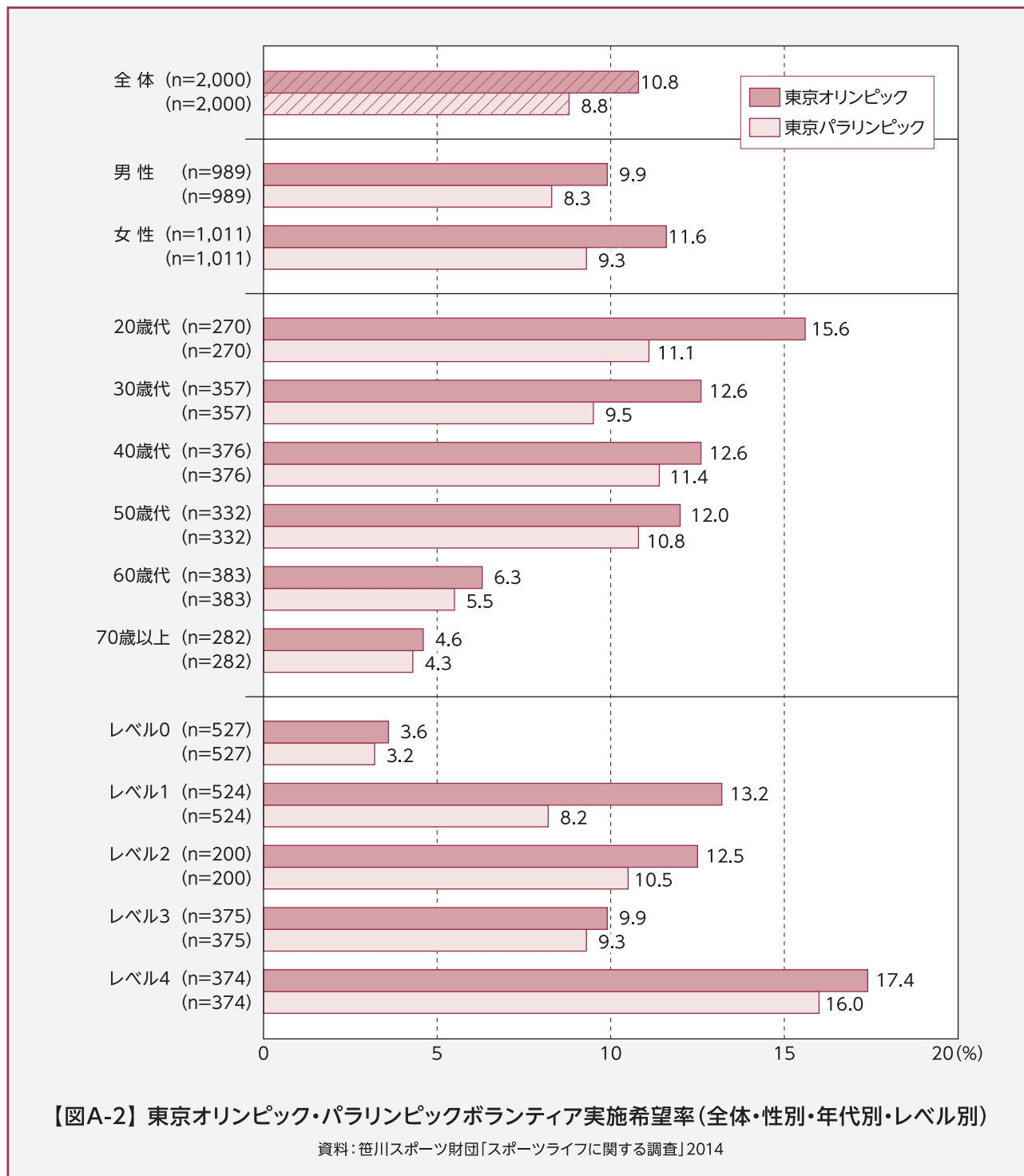
A-3 東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア実施希望状況

本調査では、東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティアの実施希望についてたずねた。

東京オリンピックでボランティアを実施したいと回答した者は全体で10.8%であった(図A-2)。性別にみると、男性9.9%、女性11.6%であり、男性と比較して女性の方が高い値を示している。年代別にみると、20歳代が15.6%と最も高く、次いで30歳代、40歳代が12.6%と続いている。運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル4」が最も高く17.4%であった。次いで「レベル1」が13.2%となり、「レベル2」(12.5%)、「レベル3」(9.9%)、「レベル

0」(3.6%)と比較して高い値を示している。

東京パラリンピックにおいてボランティアの実施を希望すると回答した者は全体で8.8%であった。性別では、男性8.3%、女性9.3%であり、東京オリンピックと同様に女性の方が高い値を示している。年代別にみると、40歳代11.4%、20歳代11.1%、50歳代10.8%と続いている。運動・スポーツ実施レベル別では、「レベル4」が16.0%と最も高く、次いで「レベル2」10.5%、「レベル3」9.3%、「レベル1」8.2%、「レベル0」3.2%の順となっている。



A-4 東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア希望活動内容

東京オリンピック・パラリンピックにおいて、ボランティアを実施したいと回答した者について、希望するボランティア活動内容²⁾をたずねた。その結果、東京オリンピック・パラリンピックともに、全体では「競技場での選手誘導などの運営補助」が最も高く、次いで「入場口でのチケット

等の確認」「競技場内での来場者の誘導」となった(表A-3、表A-4)。性別にみると、東京オリンピック・パラリンピックともに、男性では1位「競技場での選手の誘導などの運営補助」、2位「競技場内での来場者の誘導」、3位「入場口でのチケット等の確認」、4位「開会式・閉会式で

の運営補助など」、同率で「競技場内外でのゴミ回収や清掃」となっている。一方、女性では、1位「入場口でのチケット等の確認」、2位「競技場内での来場者の誘導」、3位「選手村での清掃や食事配膳など」、4位「競技場外でのチケットなどの販売」となり、希望するボランティア活動について、男女で順位の入れかわりがみられた。

今回の調査結果から、年代や性別、日常のスポーツ実

施状況などにより、東京オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア実施希望率や希望する活動内容に違いがあると判断できる。大会の運営には約8万人のボランティアが必要と試算されるが³⁾、今後ボランティアの育成を進めていくにあたり、ニーズに応じたさまざまなアプローチが必要であると示唆された。

【表A-3】東京オリンピックにおけるボランティア希望活動内容(全体・性別:複数回答)

ボランティアの内容	全 体 (n=214)		男 性 (n=98)		女 性 (n=116)	
	順位	希望率 (%)	順位	希望率 (%)	順位	希望率 (%)
競技場での選手誘導などの運営補助	1	42.1	1	49.0	2	36.2
入場口でのチケット等の確認	2	33.2	3	25.5	1	39.7
競技場内での来場者の誘導	3	32.2	2	39.8	6	25.9
競技場外でのチケットなどの販売	4	26.6	8	17.3	3	34.5
選手村での清掃や食事配膳など	5	25.2	6	20.4	4	29.3
開会式・閉会式での運営補助など	6	24.8	4	22.4	5	26.7
競技場内外でのゴミ回収や清掃	7	18.2	5	21.4	7	15.5
競技場外での来場者の誘導	8	15.0	7	18.4	9	12.1
売上げの集計などの事務業務	9	13.1	10	14.3	9	12.1
来場者案内所や会場周辺での通訳	10	12.6	11	11.2	8	13.8
入場口付近での荷物検査などの警備	11	8.9	9	16.3	11	2.6
その他	12	1.9	12	1.0	12	2.6

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

【表A-4】東京パラリンピックにおけるボランティア希望活動内容(全体・性別:複数回答)

ボランティアの内容	全 体 (n=175)		男 性 (n=82)		女 性 (n=93)	
	順位	希望率 (%)	順位	希望率 (%)	順位	希望率 (%)
競技場での選手誘導などの運営補助	1	40.0	1	45.1	2	35.5
入場口でのチケット等の確認	2	36.0	3	28.0	1	43.0
競技場内での来場者の誘導	3	33.7	2	43.9	5	24.7
選手村での清掃や食事配膳など	4	25.7	7	20.7	3	30.1
競技場外でのチケットなどの販売	5	22.9	8	15.9	4	29.0
開会式・閉会式での運営補助など	6	22.3	4	23.2	6	21.5
競技場内外でのゴミ回収や清掃	7	18.9	4	23.2	7	15.1
競技場外での来場者の誘導	8	18.3	6	22.0	7	15.1
来場者案内所や会場周辺での通訳	9	10.9	11	9.8	9	11.8
売上げの集計などの事務業務	9	10.9	8	15.9	10	6.5
入場口付近での荷物検査などの警備	11	8.6	8	15.9	11	2.2
その他	12	1.1	12	0.0	11	2.2

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

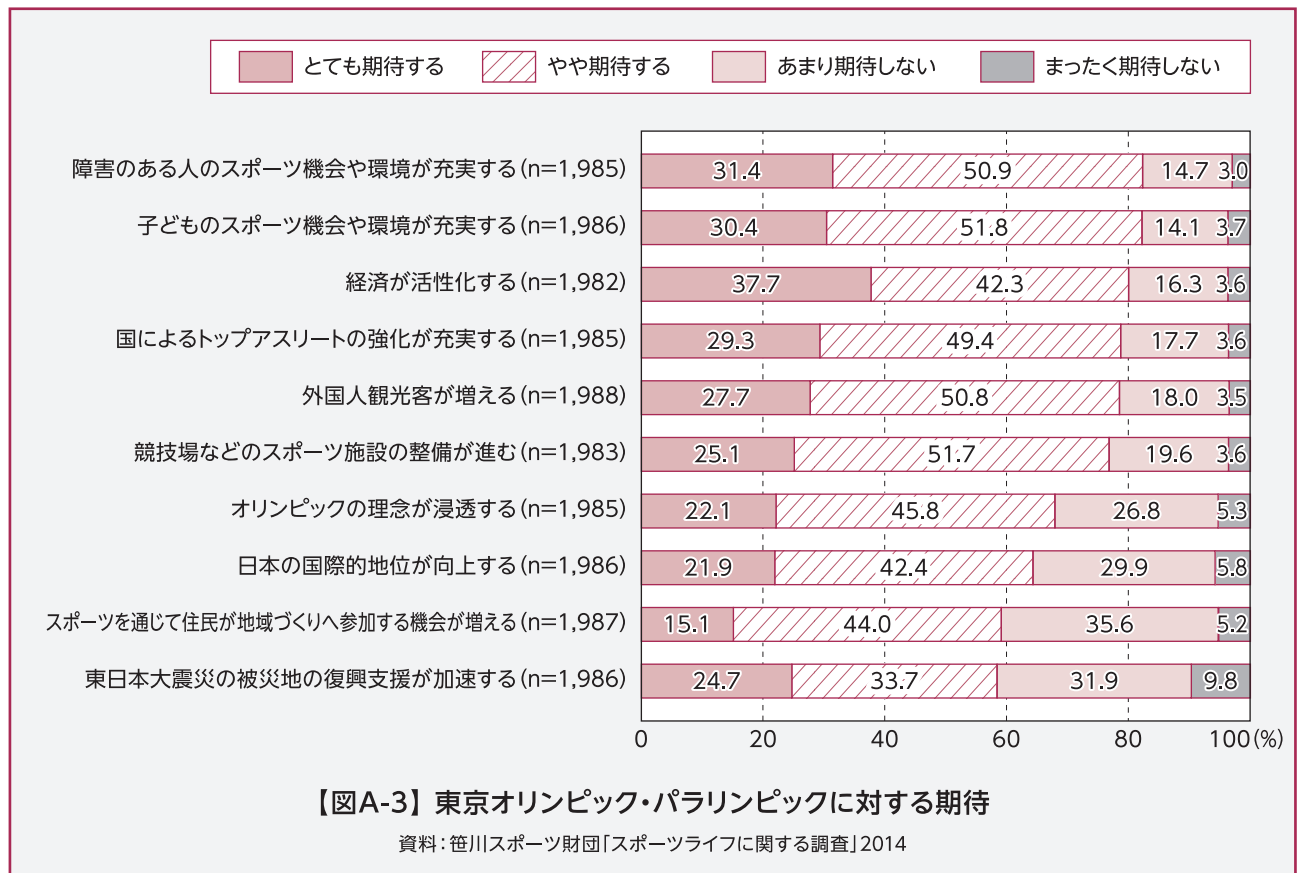
A-5

東京オリンピック・パラリンピック開催に対する期待

本調査では、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い期待される社会の変化について、10項目を取り上げ、「とても期待する」「やや期待する」「あまり期待しない」「まったく期待しない」の4段階でたずねた（図A-3）。

各項目において、期待する（「とても期待する」+「やや期待する」）と回答した者の割合をみると、全体では「障害のある人のスポーツ機会や環境が充実する」が最も多

く82.3%であり、パラリンピックを通じた障害者スポーツの普及・振興への期待の高さが確認できる。次いで「子どものスポーツ機会や環境が充実する」82.2%、「経済が活性化する」が80.1%となった。一方で、「スポーツを通じて住民が地域づくりへ参加する機会が増える」59.1%、「東日本大震災の被災地の復興支援が加速する」は58.4%となり、相対的に低い値を示した。



スポーツには「する」「みる」「ささえる」の3つの活動があるが、「スポーツライフに関する調査」2014の調査結果をみると、過去1年間における週1回以上の運動・スポーツ実施率は57.2%（p69、図1-4参照）、直接スポーツ観戦率31.6%（p86、図4-1参照）、スポーツボランティア実施率7.7%（p95、図6-1参照）であり、近年ではいずれも全体的に頭打ちまたは横ばい傾向が続いている。本稿で

示した大会の直接観戦希望率やボランティア実施希望率も含め、東京オリンピック・パラリンピックに対する関心は今後ますます高まっていくものと想定される。東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、年齢や障害の有無などに関わらず、さまざまな形で日常的にスポーツを楽しめる社会の形成に結びつく具体的な施策展開が求められる。

<参考文献>

- 1) 東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会. 立候補ファイル. 2013.
- 2) 東京都. 東京都長期ビジョン. 2014.
- 3) 市居愛. オリンピックボランティアになるための本. インプレスジャパン, 2014.